



協働事例発表資料

資料 7

株式会社 丸野 岩永 竜二





目次

1. トラックの改善基準告示（改正）
2. 弊社受託物流センターに関わる2024年問題の取組
3. 取組項目に対する改善労働時間（案）の提示
4. まとめ

1. トラックの改善基準告示（改正）

- ▶ 長時間・過重労働の実態にある自動車運転者の健康確保等の観点から、見直しを行うもの。

	現行	見直し後
1年の拘束時間	<u>3,516時間</u>	原則： <u>3,300時間</u> 
1か月の拘束時間	原則： <u>293時間</u> 最大： <u>320時間</u>	原則： <u>284時間</u> 最大： <u>310時間</u>   <small>1年の拘束時間が<u>3,400時間</u>を超えない範囲で<u>年6回</u>まで</small> ※ <u>284時間</u> を超える月が3か月を超えて連続しないこと。 ※ 月の時間外・休日労働が <u>100時間</u> 未満となるよう努める。
1日の休息期間	<u>継続8時間</u>	<u>継続11時間を基本とし、9時間下限</u>  ※ <u>長距離・泊付きの運行の場合、運行を早く切り上げ、まとまった休息を取れるよう例外を規定。</u>

【その他】

- ▶ 連続運転時間：「運転の中断」は「原則休憩」とする。SA・PA等に駐車できない等、やむを得ない場合は30分延長可。
- ▶ 分割休息特例：分割の方法を見直し（現行：4H+6H、5H+5H等→見直し後：3H+7Hも可）、分割休息が連続する期間を短縮。
- ▶ 2人乗務特例：車両が一定の基準を満たす場合には、拘束時間を延長。ただし、運行終了後11時間以上の休息を確保。
- ▶ 予期し得ない事象：事故、故障、災害等やむを得ない場合の例外的取扱いを規定。

2. 弊社受託物流センターに関わる2024年問題の取組

取組項目		顧客	取引先
配送	①-1 配送休配の設定（365日→312日：週一休配 3・1・2全便休案）	●	○
	①-2 配送休配の設定（365日→312日：週一休配 3便のみ休案）	●	○
	② 納品与件（配送の緩和）（フルト、ドライ時間帯）	●	
	③ ドライ3便配送の集約（酒、米、日雑は2便へ）便数の削減。	●	
	④ 鮮魚配送日数の検討	●	
倉庫	⑤ TPL定番出荷（ケロッパー・菓子・酒・米）休作業の設定（東彼杵365日→312日：週一休作業）	●	○
	⑥ TC入荷（日雑の入荷の軽減:週4日⇒3日へ）	●	
	⑦ 入荷時間の前倒し緩和（7：00～）	○	●
	⑧ 定番入荷休日1日増（月曜若しくは週の中日を入荷無し）	●	○
	⑨-1 出荷データの前倒し（ドライ：12：30）	○	●
	⑨-2 出荷データの前倒し（フルト15：00）	○	●
	⑩ 入荷数量の抑制（出荷データに基づき在庫数、在庫日数の再設定）	○	●
	⑪ 在庫物流什器の増設（3、4ゾーン中量ラック、TPL冷凍重量ラック）		●
	⑫ TPL在庫（DC）発注単位の見直し（ケース、パレット発注へ）	●	○
⑬ 3ゾーンメザン床の張替え		●	

運送業の2024年問題の理解促進の為、まず、コスト削減よりも労働力削減

（労働環境や条件の見直しによる効率UPと人時の削減）を意識して取り組みたい旨を顧客へ提案。

非効率な業務を整理した上で定性・定量を両社で共有し、2023年8月、取引先に対し、2024年問題に対するキックオフを行い、3社とも前向きに取り組む意向となった。

3. 取組項目に対する改善労働時間（案）の提示

改善内容	区分	取組内容	改善数値目標	
			月間	年間
改善内容	倉庫	1 定番在庫入荷休日の設定（対象入荷休日：水曜日）	174 時間	2,084 時間
		2-1 データ受信の前倒し（ドライ倉庫：45分前倒し）	664 時間	7,968 時間
		2-2 データ受信の前倒し（フルド倉庫：30分前倒し）	487 時間	5,844 時間
		3 日用品（TC）の入荷頻度削減（週4回⇒週3回へ）	2 時間	24 時間
			1,327 時間	15,920 時間
	配送	1 納品時間緩和案	319 時間	3,828 時間
		2 配送休配日の設定（365日→312日：週一休配 3便のみ休案）	115 時間	1,380 時間
		434 時間	5,208 時間	
合計			1,761 時間	21,128 時間

協議を重ね、各取組内容に対する改善数値目標の設定、2024年4月からの運用開始予定

倉庫 月間1,327時間削減 ⇒ 1日8時間 月間22日稼働の場合 **7.5人の削減**

配送 月間 434時間削減 ⇒ 1日8時間 月間22日稼働の場合 **2.5人の削減**

月間合計 10人の削減

4. まとめ



物流について、正確に理解し、目的や機能を把握することで、より効率的な物流を行うことが可能になります。



この機会に、物流についての理解をさらに深め、効率的な物流改善提案実現を実行してまいります。



ご清聴ありがとうございました。